

すなやま・けんいち

株式会社ゆう建築設計代表取締役。建築設計と企画を一体的に行う「建築企画」のバイオニア。関西を中心に80を超える医療・介護施設の設計を手がけ、近年では医療法人等を対象とした高齢者住宅事業のセミナーを各地で展開している。1972年、SANT-LUC DE TOURNAI 建築学校(ベルギー)留学。75年、京都大学工学部建築系学科修士課程修了。81年、ゆう建築設計設立。著書に、「医療・介護・建築関係者のための高齢者の住まい事業企画の手引き」(学芸出版社)等  
http://www.eusekkei.co.jp/  
E-mail:sunayama@eusekkei.co.jp

また最近では、各メーカーが廉価版や設置面積が少ないものな

このように、入浴関連製品はパリエーションが増えていきますので、実際の設計では介護用ユニットバス、リフト浴槽、パンジー、仰臥位浴槽などタイプを比べ、また各メーカーと個々の機器の性能・値段を吟味して設備を決めて

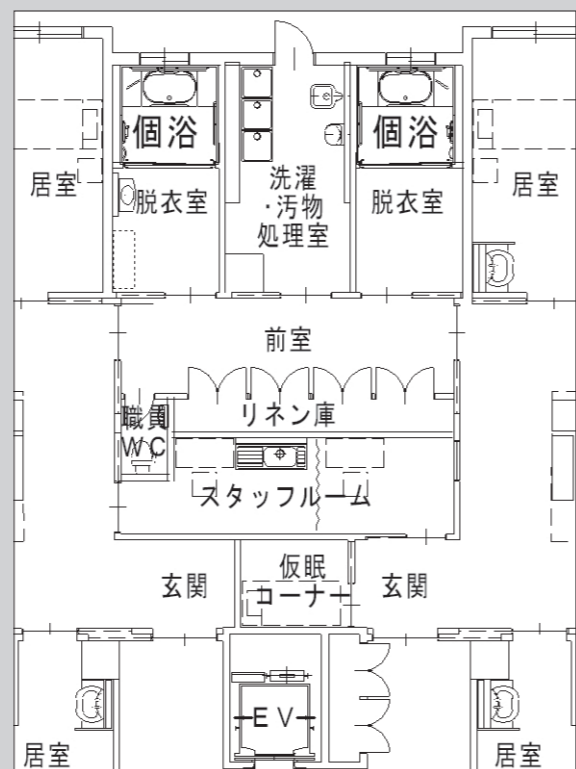
もちろん入浴プランは、コストによってのみ決められるものではありませんが、介護スタッフにかかる労力や配置数、入所者への提供サービスなど、いずれも施設の根幹に直接かかわってきます。これらを総合的に勘案することが求められます。

表 浴室の建設コスト+浴槽機器コスト (金額は定価の80% ゆう建築設計作成)

NO.	建築工事費(躯体以外)	備品整備費	合計
a	標準仕様 積水ホームテクノ	0	1,500千円
b	標準仕様 積水ホームテクノ	リフト設置 ミニ・リフト	2,300千円
c	パンジー仕様浴槽 積水ホームテクノ	パンジー 酒井医療	2,700千円
d	タイル貼付浴槽	個浴+ メトス	4,400千円
e	特浴 タイル貼付浴槽	ロベリア(仰臥位浴槽) 酒井医療	10,900千円 (片側シングルタイプ・電動ストレッチャー付)

\*介護用ユニットバスは積水ホームテクノとパナソニックから発売  
\*介護浴槽(パンジー)は手すりや昇降ユニットによって日常生活動作レベルに合った入浴が可能  
\*メトスのリフト浴槽「個浴+」は普通の入浴に近づけることをコンセプトに開発された製品

図 2ユニット2個浴



ど、さまざまなタイプの仰臥位浴槽を発売しています。価格とスペースに幅が広がった結果、平均要介護度の高い施設では、複数の仰臥位浴槽を導入するケースも出てきています。

いきます。私どもでは浴室の決定段階で、候補に挙がった入浴方法の「建設+浴槽機器コスト比較」(表参照)を提案しています。「建設費+浴槽機器費」にそれぞれの介護に要する費用を合わせて検討することが浴槽を決める場合の大きな要素となります。

多様化する特養 建築から新たな可能性を探る

モノ

# 多様化するユニットケアの浴室 施設形成を左右する浴室設計(前編)

砂山憲一 株式会社ゆう建築設計代表取締役



特養の設計で、事業主による違いが最も大きく現れるものの1つが浴室です。

ユニットケアが導入された当時は、「1ユニット1個浴」で設計するケースが多かったのですが、ここ数年の弊社の設計を見ると、施設ごとにその計画内容が違ってきます。これは、ユニットケアの経験を積むことで、入浴に対する考え方が施設により異なってきたからです。さらに、ユニットケアの構成プランや浴室機器の多様化で、選択肢が広がってきました。

## 変わってきた前提条件

従来の特養は、浴室が大浴室と特浴で成り立っていましたが、ユニットケアの導入後は、各ユニットに介護浴槽を備えた個浴と全体で使用する特浴という組み合わせがスタンダードとなりました。ところが最近では、こうした施設から「介護浴槽にリフトを導入したい」という依頼が増えてきています。これは、入居者の平均要介護度が高くなり、入浴方法の見直しを迫られるようになってきたためです。

な組み合わせでは、満足いく内容を得られませんが、次に新しい浴室の構成を紹介します。

## 重度者にも対応可能なリフト浴槽やパンジー

最も浴室構成を変化させたのは、パンジー(酒井医療)などの介護浴槽とリフト浴槽の進化です。リフト浴槽は座位を保てる一方であれば、要介護度が4程度の方まで対応可能です。パンジーなどの介護浴槽もさまざまなオプションを活用することで、これも4程度の方まで使用できるようになりました。つまり、仰臥位浴槽に頼らずユニット内の入浴でカバーできる範囲が飛躍的に広がったのです。

## 2ユニット2個浴で3種類の入浴方法へ

一方、夜間の見守りは2ユニットを1人でみられるようになりました。このため私どもは、スタッフルームや個浴などを2ユニット共有に近い形で設計することが増えていきます。そうすると、2つの個浴を並べて配置することになります。ここで同じ形の浴槽を置く

のではなく、リフト浴槽やパンジーなどを組み合わせる異なる設定の個浴を配置すれば、2ユニット20人で2種類の入浴が可能となります。つまり、2つの個浴の内容を変えていくことで、全体で使う特浴も含め、入居者に3種類の入浴方法を提供できるのです。

## 仰臥位浴槽は安くなっている

ところで、各ユニットには個浴が配置されているのに、なぜ仰臥位浴槽のある特浴は施設に1台なのでしょうか。ユニット内に個浴を設置することで入居者の移動距離は短くなり、介護スタッフの負担は少なくなりました。ところが機械浴はユニット外にあるため、相変わらず遠くまで移動しなければなりません。

この理由は単純です。仰臥位浴槽は金額が高く、ユニット内に設置するのは現実的でないからです。買値が1000万円を軽く超えていたのですが、誰もがこう思っていたのですが、状況は全く変わってきました。そもそもこの金額帯は、順々に流れ作業で入浴することができ、俗にいう順送式タイプの浴槽